

令和7年度地域政策研究成果報告会  
2026年3月13日(金)15:05~15:15

## 藤枝の地域資源を生かした体験と対話の場づくり

静岡福祉大学 子ども学部 得居千照研究室

### 発表概要

はじめにー本研究の目的と概要、哲学対話とは？ー

研究の成果と課題

- ①学生のファシリテーション向上に向けた先駆的実践現場の参与観察及び実践  
(岩田、佐藤、芦澤)
- ②藤枝市の地域資源を生かした体験と対話の場の創造 (野ヶ本)
- ③対話型シンポジウム2025in静岡の企画と実施 (得居)

おわりにー今後の展望ー

# 本研究の目的と概要

## 【研究の目的と概要】

・本研究の目的は、藤枝市の地域資源を生かした体験と対話の場の創造による地域の再発見と活性化、地域における対話の場を拓くことである。

・藤枝の地域資源を生かした体験と対話の場づくりとして、子どもから大人まで、だれでも参加することの場づくりを行う。本研究では、対話の手法として「哲学対話」に着目する。

## 【哲学対話とは？】

哲学対話とは、身の回りにある「なぜ」や「当たり前」だと思い込んでいることについて、一度立ち止まり、他者とともに、ゆっくり、じっくり、あれやこれや話して、聞いて、考える市民活動のこと。

①学生のファシリテーション向上に向けた先駆的実践現場の参与観察及び実践  
(岩田、佐藤、芦澤)

## 新潟県佐渡市における対話の場づくりの視察と実践

### 調査概要

10月27日（月）新潟県佐渡市立加茂小学校

ナイトp4c（場所：佐渡中央会館 2F 開発研修室）

10月28日（火）新潟県佐渡市立両津吉井小学校

## 佐渡島の概要（岩田・佐藤・萱場）

- ・ 史跡 佐渡金山

世界文化遺産 2024年に登録 日本最大の金銀山 400年の歴史

江戸時代の佐渡金山を忠実に再現した模型を見たり、純金延べ棒の重さを体感できたりする

- ・ たらい舟力屋観光汽船

佐渡島の名物・丸い伝統舟に乗って海上をゆったり楽しむ観光体験ができる。

たらい舟は、丸い桶のような形をした伝統的な小舟で、

元々は佐渡の岩礁沿いでワカメやアワビなどを採る漁具として使われていた。

## 新潟県佐渡市立加茂小学校 6年生とてつがくえほんづくり

1グループ5～6人 計3グループ

①時間って何？

②自然とは？

③勉強ってなんのためにやるの？

## 新潟県佐渡市立加茂小学校 3 年生 「道徳×p4c」

問： どうして命がけで子供を助けるの？

問： 子供だから助けたのか。

問： 家族がいるのに、どうして命がけで助けに行けるのか。

問： 本当に命をかけるのか。本当に命がけでいいのか。

- ・ 命をかけるとは、自分が死ぬこと？
- ・ 命がけで行くと、家族は何というか。

## 新潟県佐渡市立加茂小学校 4 年生 とてつがくえほんづくり

- ・ グループごとにてつがくえほんを作る。
- ・ 「棒人間」をテーマに疑問や絵、文字などを書く。
- ・ スムーズにかけている子もいれば、悩んでいる子もいた。
- ・ 口には出せているが、文字に起こすことに不安を感じている様子だった。

## 新潟県佐渡市立加茂小学校 2年生とてつがくえほんづくり

- ・全体で1、2個のテーマを決め、グループごとに作る。
- ・「いきもの」「たべもの」のテーマから選び、疑問や絵、文字などを書く。
- ・「いきもの」をテーマにかいている子どもが多く、写真や本物を見てかきたいと言っている子どもが多かった。
- ・お話ししながら書くことで、アイデアが出てきていた。
- ・発表したい子どもが多く自分らしいイラストや疑問がかけていた。

## 両津吉井小学校縦割り班でのてつがくえほんづくり

- ・縦割り班ごとにテーマを決める。
- ・「トキ」をテーマに疑問や絵、文字などを書く。
- ・上級生の子どもが下級生の子どもに説明しながらかいていた。
- ・かけている子どもが多い中で、かけていないことに不安を感じてしまう子どももいた。
- ・大人が過度に介入せずに行うことで、子どもたち同士で気兼ねなくかけたり質問できたりする環境になっていた。

# 佐渡市の現職教員とのp4c みんなで考えた問いからp4c

大学生を含めた15人で行う

## 【問い】

予定外、予想外を楽しめるようになるのか

- ・ 生き方と旅行に分けられる
- ・ 予定外、予想外が起きないのはどうなのだろう
- ・ 授業における予定外、予想外はどうなのだろう
- ・ 例やスタンダードとの違いをみると、楽しめるのではないか

## 佐渡での調査と実践を通して（岩田）

- ・ 教員の言葉や他の児童の言葉に左右されやすい  
→ 問いに偏る、教員の声掛けに偏る
- ・ 切り返しが大切になる  
→ 問いがとまったとき、新たな見方をする

## 佐渡での調査と実践を通して（佐藤）

- ・ p 4 c を行うことで、子どもが多く発言し、授業を作っている。  
→発言する人が偏っている。
- ・ p 4 c を取り入れるときは、取り入れる最適な場で活用すべきである。

### 【新たな問い】

- ・ 発言が苦手の子はどのような援助必要なのか。

## 佐渡での調査と実践を通して（芦澤）

- ・ 担任が受容、共感の気持ちを子どもたちに伝わるように表すこと。
- ・ 小学校での学びにおいて、のぞき込む、強制的に意見を作るように促すこと  
→子どもが不安になり、意見を作りにくい環境になっている。
- ・ 子どもが安心して考えられるような配慮、環境を設定していくことが重要。

②藤枝市の地域資源を生かした体験と対話の場の創造（野ヶ本）

## 藤枝市における「てつがくウォーキング」の実践

2025年11月8日（土）蓮華寺池公園内

当日はポスターで広報活動を実施  
参加者3名（スタッフ含めて計8名）

### 【てつがくウォーキングのやり方】

1. 今の気持ちを紙に書き出す
2. 紙をシャッフル
3. 貰った紙に記載されている気持ちに合った場所を歩きながら探す
4. 場所の発表と新たな問いだし ※繰り返し

歩いて考えて発見しよう！  
**対話で「てつがく」ウォーキング**  
**11月8日（土）10:00～12:00**  
集合：蓮華寺池公園 郷土博物館・文学館 講座学習室  
(蓮華寺池公園を歩きます/少雨決行・荒天中止)



参加対象：どなたでもOK! お子さんから大人までご参加をお待ちしております。  
ご家族でもご参加も大歓迎です！  
**「てつがく」ウォーキングってなに？**  
普段、あまり深く考えることのない身近な問いをもとに、みんなで歩きながら考える方法です。  
哲学の専門知識は必要ありません。

主催  
岡原千穂（静岡福祉大学）

参加費無料  
事前登録不要

お問い合わせ  
静岡福祉大学 事務局企画戦略課  
054-631-6200

※藤枝市地域政策課が、企画事業の助成を受けています。  
※JSPS 科学研究費 24K22778 の助成を受けました。



立寄るお寺や地域で、  
問いと対話で研究する「哲学対話」を実現しています。

## 成果と課題

【成果】（静岡福祉大ホームページにも掲載）

出された気持ち    そこからの問い

「ワクワク」 → ワクワクを色にあらわすと何色

「のんびり」 → 動いていなければのんびりなのか

「ヒヤッハー」 → ヒヤッハーの割合は

など一人ずつ発表を行いそこから問いを深めた

### 【今後の課題】

- ・人がなかなか集まらない  
→ 興味が無い人をどう巻き込んでいくか
- ・参加者よりも学生の人数の方が多状態
- ・「てつがく」の魅力に気付いてもらえない現状
- ・周囲の人から不思議がられる



### ③対話型シンポジウム2025in静岡の企画と実施（得居）

2025年12月19日（金）18:00~20:00 静岡大成中学・高等学校  
「静岡の学校や地域における対話の場づくりの方法を考える  
—学生がみつけた哲学対話の魅力と課題を通して—」を開催。  
8名の学生がシンポジストとして登壇。

#### 成果

- ・東京や京都など、県外の学生や研究者も参加し、計20名の参加があった。
- ・第2部での哲学対話では、参加者同士で問いを出し合い「間違いつてなに？」についての対話を行った。

#### 課題

- ・本シンポジウムでは、地域における対話の場づくりの重要性が確認された。
- ・これからも、地域と連携しながらいかに活動を継続させていくことができるかが課題である。

対話型シンポジウム2025in 静岡  
静岡の学校や地域における対話の場づくりの方法を考える  
—学生がみつけた哲学対話の魅力と課題を通して—  
日時: 12月19日(金)18:00~20:00  
場所: 静岡大成中学・高等学校(最寄り: 静岡駅)  
住所: 静岡市南区鷹匠2丁目4-18

◆シンポジウム趣意◆  
一人ひとりの多様な価値観を尊重しながら、他者とともにによりよい社会を実現するための一つの方法として、対話への期待が高まっている。その一方で、対話の場は自然に発生するものではない。  
では、**従来の対話型シンポジウムとは異なる対話の場づくりの方法として「哲学対話」**に着目する。哲学対話とは、身近で素朴な問いについて考え、対話を通して探究する活動である。本シンポジウムでは、美談対象地域を静岡とし、静岡の学校や地域における哲学対話実践に参画した学生のふりかえりをもとに、その魅力と課題を検討していく。**互いの話題提供**を踏まえ、参加者とともに問いを見出し、哲学対話を実践する「対話型シンポジウム」を実施する。この対話型シンポジウムを通して、静岡における対話の場づくりに関心をもつ者同士が新たに出会い、ネットワークが築かれることを期待する。

◆対話型シンポジウムの構成◆  
第1部 学校や地域における哲学対話の魅力と課題を知らず  
静岡県の学校や地域における哲学対話に参加した学生による魅力と課題を共有します。  
第2部 哲学対話で「対話の場づくり」を考えよう  
哲学対話も同時開催!  
ファシリテーター: 得居千照  
話題提供をもとに問いを立て、みんなで考えます。  
※哲学対話の方法についても丁寧に説明するので、初心者の方も安心してご参加いただけます。

学校や地域における対話の場づくり、哲学対話に興味がある人にオススメです!  
↓参加申し込みはこちら↓  
[哲学対話参加申し込みフォーム](#)

企画: 得居千照 (静岡師範大学)  
編集: 佐賀孝一 / いま / 19名 学校や地域で哲学対話を実施、研究中

お問い合わせ先: 静岡福祉大学事務局企画戦略課 (054-631-5200/kikakultsum.ac.jp)  
主催: 静岡福祉大学 (住所: 焼津市本中根 549-1)  
藤枝市地域政策研究・創造事業「藤枝の地域資源を生かした体験と対話の場づくり」

### 今後の展望

- ・対話の場づくりの前提を共有するための紙芝居や動画作成を行うことで、当日の実践の説明を短縮できる可能性が示唆された。
- ・対話の場づくりは、対話の参加者のルールだけでなく、対話の輪の外にいる傍観者へのルールを作成した方がいい、という対策の必要性が明らかとなった。
- ・本研究の一番の課題は参加者の確保が難しく、地域からの評価を十分に得ることができていない点にある。
- ・それでも参加してくれた方からは、いつもはあまり考えないけれどよく考えることができたなど、他者との対話を通して、探究、思索の時間につながったという評価を得ることができた。
- ・「哲学」の難しそうなイメージを転換し、他者とともに問いを探究する対話のおもしろさを根付かせることができるように継続的に取り組み、地域創生のきっかけづくりを行っていく。